



「挫ける」

柔道部時代、練習中に足首の靱帯を損傷しました。今までの捻挫とは異なり怪我した瞬間、足に強い電気が走ったようでした。病院に行き、足首の周りにギブスをして松葉づえでの生活が始まりました。元の練習に戻るまでに 1 ヶ月ほど時間がかかったように思います。挫けるという言葉の辞書で調べる時に「関節を不自然に曲げて、関節やその周辺の組織を傷つける」とあります。そして他には「勢いを衰えさせる、押さえつける、弱める」ともあります。体の外傷だけではなく、心の状態を表わすのにもこの言葉は使われます。強い力が働いて、心が押さえつけられ、勢いが弱まり、心が挫けるのです。その時も私達の意思の伴った歩みが止まってしまいます。

今日の箇所を見る時にパウロの心は挫けそうになったのではなく一回挫けてしまったように思います。"Why are you weeping and **breaking my heart?**この文書は使徒行伝 21 章 13 節の英訳(NIV)ですが、太字の所がブレイキング マイ ハートとなっています。なぜあなたは、泣いたり、心を挫くのか？と言う意味ですが、心が碎かれ、壊れそうな彼の心情を表わしているかのようです。彼の心に加わった強い力はパウロ先生行かないで！！という弟子たちの涙です。大胆な推察が赦されるならパウロの張りつめていた心が、繰り返される弟子たちの悲痛な叫びを前にして挫けてしまったのかもしれませんが。しかし彼はその決意を新たにして、**私は、主イエスの御名のためなら、エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています**」と表明しました。これは彼の心が尋常なほど強いものではありません。弱さや痛みの中でも主への信頼を貫き通した姿なのです。この箇所は彼が最後まで後ろ

に隠していた自分の弱さを主に明け渡した箇所なのです。

私達の心は挫けます。しかしその弱味を周りに知られたくないので隠して又

歩き始めます。しかしその痛みはこらえ切れるほどの痛みではありません。皆、人知れず、痛みを抱えて叫び、涙を流します。次のステップが踏めずにもがき苦しみます。パウロを励ました聖霊は私達と共におられます。私達の弱さを励まし、痛みを慰めを与えて下さるのです。私達は主への告白が迫られる時があります。その時、弱くても痛くても、そしてその後に戦いが待ち受けていても、主と共におられます。だから私は大丈夫！と告白することが大事です。そのように中々言えない時があります。信仰告白する上で大切な事は、主が私達の弱さを担って十字架にかかって下さったこと、そしてそれを信じぬく事です。それが私達の強さの源です。私達の内から語られる御言葉を待っている人たちがいます。共に主を見上げて前進してまいりましょう。

